

保健師

シリーズ①

知っていますか？

がん検診の大切さ



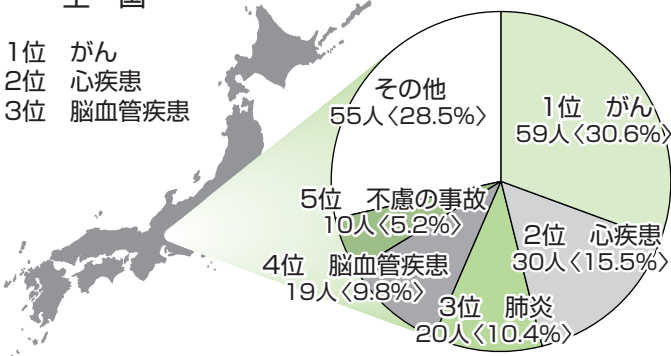
現在、日本の死亡原因の第1位はがんです。日本人のおよそ2人に1人ががんにかかり、3人に1人が亡くなっています。

平成21年死亡原因

全 国

- 1位 がん
- 2位 心疾患
- 3位 脳血管疾患

笠松町(総数193人)



医療技術の進歩により、がんは早期に発見し、治療を行えば、完治することが可能な病気となってきました。早期がんの段階で治療を行えば8割以上が完治するといわれています。ただし、症状のあるがんは早期がんではありません。早期がんでは症状は出ないことが多いため、症状がないうちに発見することが大切なのです。

がんを早期に発見するには、がん検診を定期的に受診することが大切です。

町では、各種がん検診(胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん)を実施しています。詳しくは保健カレンダーをご覧ください。

かさまつの民話『昔むかし』

米野の戦い③

福島や池田を将とする尾張の軍勢の中には「われこそ一番乗りをあげよう。」「われこそ、敵の大將の首をとっててがらをあげよう。」と、勢いこんでくる兵がいた。でも、木曾川の流

れは強く、ようやく川岸につこうとする所で、鉄砲でうたれて馬から落ちる者、馬もろとも流される者も少なくなかった。死ぬか生きるかの戦いに強いも弱いもなかった。ひたすら戦い、攻め、前に進むしかなかった。川は血で染まり、野は戦場と化したのである。

この合戦で、みごとな防戦につとめたのは飯沼勘平長資であった。

米野の堤にあがってくる尾張の兵は

「やあやあ、われこそは一番のり、堤五郎兵衛にごぞーる！」

「やあ！われこそ一番槍の大塚権太夫なるぞ！さあ、勝負いたせ！」

すさまじい勢いで攻め上がってくるのである。

勘平長資は、紅のよろいに身をかため、あし尾の馬に乗って、攻めてくる兵どもを、かたっぱしからうち倒していったが、味方には犠牲者も多かった。権太夫の槍につきさされる者、ふみ

たおされる者を見て、

「おお、われは、大垣、池尻城の飯沼勘平なり！その首、渡してなるものか。さあ返せ！」

馬より飛び降り、一番乗りの権太夫に槍を構えた。すると、

「なにお、こしやくな。こんな若ざむらいにやれるか。それ、権太夫を助ける。」

いっせいに五騎が攻めてきた。でも、それにひるまずたちむかい、一番乗りの名のりをあげた敵の勇者、権太夫を組み伏せ、その首をはねてしまった。そして逆に勘平は

「この首を旗本へ持っていけ。」

手内の者に命じて馬を引きよせた。(つづく)



大塚権太夫の塚(笠松町無動寺)